

平成18年12月25日

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス
 代 表 者 名 代表取締役社長 北 野 俊
 (J A S D A Q コード番号 : 7 6 2 3)
 問 い 合 っ せ 先 取締役管理本部長 古 川 晴 男
 電 話 045-473-1211 (代表)

平成19年4月期中間（連結・単独）業績予想との差異および特別損失の発生
 ならびに通期（連結）業績予想の修正に関するお知らせ

平成19年4月期(平成18年5月1日～平成19年4月30日)の業績予想について、平成18年6月23日付当社「平成18年4月期決算短信（連結）」及び同日付当社「平成18年4月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。なお、特別損失が発生しましたので併せて発表いたします。

記

1. 平成19年4月期中間連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成18年5月1日～平成18年10月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成18年6月23日発表)	13,600百万円	200百万円	110百万円
今 回 修 正 (B)	13,619百万円	158百万円	30百万円
増 減 額 (B - A)	19百万円	△42百万円	△80百万円
増 減 率	0.1%	△21.0%	△72.7%

(2) 修正理由

売上高は、カーライフサポート事業の燃料油販売においては、製品価格が夏期における原油価格の高騰を背景に上昇したことから、販売数量は前年同期より減少いたしました。製品価格の上昇により売上高では前年同期を上回ることとなりました。また石油製品価格の高騰はSSの油外商品販売においても消費動向に影響を与え、前年同期を下回りました。レンタカー事業においては前連結会計年度までの積極的な店舗展開の効果もあり、売上は堅調に推移し、取扱開始後1年を経過した環境車検も車検入庫台数が回復し、業績に貢献しました。

この結果、カーライフサポート事業の売上は、前回発表時の計画の水準となりました。

カービジネス事業の売上では、ジャガー車は新車種の投入が少なく目標を下回りましたが、フォード車は相次ぐ新型車の投入効果もあり前年同期を上回る実績を上げました。BMW車も主力車種の新型車を投入してきた新車販売に加え、中古車販売も引き続き好調であり、前年同期を上回る実績を上げました。この結果、カービジネス事業全体としては前回発表時の計画並みとなりました。

この結果、売上高は、グループ全体では目標比0.1%増の13,619百万円となりました。

経常利益は、連結対象子会社を含めたカービジネス事業で、ジャガー車販売が厳しい状況でしたが、BMW車、フォード車の新車販売は計画を上回ったことに加え、中古車販売・整備部門も収益に貢献しました。カーライフサポート事業で石油商品販売価格の上昇に伴い販売数量が伸び悩む中、厳しい競争下で価格の変動も激しく利益率が計画を下回った結果、経常利益は158百万円（当初予想比：42百万円の減少）となりました。

当期純利益につきましては、役員退職慰労金支給104百万円などに伴い、112百万円の特別損失を計上した結果、30百万円（当初予想比：80百万円の減少）となりました。

(3) 通期(平成18年5月1日～平成19年4月30日)業績予想について

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成18年6月23日発表)	28,000百万円	500百万円	300百万円
今回修正(B)	28,000百万円	500百万円	145百万円
増減額(B-A)	0百万円	0百万円	△155百万円
増減率	0%	0%	△51.7%

(4) 修正理由

国内の石油製品需要につきましては、原油価格も不透明な状況が続き、価格動向は予断を許しません。当社グループのSSにおいては、引き続きお客様に満足して頂けるサービスの提供に努め、増客、増収、お客様の固定化をはかり、業績の向上に努めてまいります。また当中間連結会計期間に実施したSSの改装効果を業績に結びつけてまいります。

自動車販売につきましても、消費者ニーズの変化により、軽自動車と高級車の二極化が進む中で、輸入車を含めた高級車販売は一層の競争の激化が予想されます。当社グループにおいては、当中間連結会計期間におけるフォード車の新型車投入、また好調に推移するBMW車新車販売の効果に加え、中古車販売ならびに整備業務による業績向上に努めてまいります。ジャガー車販売でも、中古車販売・整備部門における収益向上により、業績回復をはかってまいります。

以上の経営環境、経営施策を踏まえ、平成18年6月23日に発表しております平成19年4月期の業績予想については、売上高、経常利益は修正をいたしません。当期純利益については、当中間連結会計期間における特別損失の計上をふまえ、145百万円（当初予想比：155百万円の減少）に修正いたします。

当社グループとしては、下期もお客様に満足して頂けるようサービス内容の充実に努め、地域社会及び環境と共生を図りつつ当社グループの経営資源を活用する事で魅力的な成長性と収益性ある企業をめざします。

(5) ご参考：前期の実績(平成17年5月1日～平成18年4月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(5月1日～10月31日)	13,076百万円	200百万円	114百万円
通期(5月1日～4月30日)	27,128百万円	486百万円	229百万円

2. 平成19年4月期中間単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成18年5月1日～平成18年10月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成18年6月23日発表)	9,500百万円	200百万円	100百万円
今回修正(B)	9,504百万円	166百万円	48百万円
増減額(B-A)	4百万円	△34百万円	△52百万円
増減率	0.04%	△17.0%	△52.0%

(2) 修正理由

売上高につきましては、カーライフサポート事業は、連結・単独ともに事業内容が同一であり、修正理由、修正額は連結業績と同じ内容であります。

カービジネス事業は、フォード横浜が好調な伸びを示した結果、単独の売上高は9,504百万円と当初計画と同水準となりました。

経常利益につきましては連結業績と同様に、カーライフサポート事業における石油製品販売で、利益率が計画を下回ったことから166百万円(当初予想比:34百万円の減少)となりました。

当期純利益につきましては、連結業績と同様に特別損失計上の影響もあり、48百万円(当初予想比:52百万円の減少)となりました。

(3) 通期(平成18年5月1日～平成19年4月30日)の業績予想について

通期の見通しにつきましては、連結同様に、当社グループのSSにおいては、引き続きお客様に満足して頂けるサービスの提供に努め、当中間連結会計期間に実施した店舗改装による効果を活かして、増客、増収、お客様の固定化をはかり業績の向上に努めてまいります。自動車販売につきましても、フォード車を中心とした新型車の投入効果を活かし、引き続き新車・中古車の販売ならびに整備業務の業績向上に努めてまいります。以上の下期の経営施策、経営環境を踏まえ、平成18年6月23日に発表しております平成19年4月期の業績予想について変更はありません。

ご参考：通期業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (平成18年6月23日発表)	19,500百万円	440百万円	220百万円

(4) ご参考：前期の実績(平成17年5月1日～平成18年4月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(5月1日～10月31日)	9,073百万円	133百万円	83百万円
通期(5月1日～4月30日)	18,647百万円	338百万円	161百万円

3. 配当について

期末配当金につきましては、当初予定どおり1株あたり18円を実施予定です。

以上